

一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸  
2023年度 第1回 キャリア委員会  
議事録

開催日時：2023年4月27日（木）15:00～17:00

開催場所：兵庫国際交流会館 研修室1（兵庫県神戸市中央区脇浜町1-2-8）

出席校（委員、代理）：

◎関西学院大学・聖和短期大学（松本、山口）、  
○関西福祉大学（末政）、○甲南女子大学（深澤）、○神戸国際大学（堀竹）、  
芦屋大学（中村）、大手前大学・大手前短期大学（久保）、甲南大学（天羽）、神戸大学（田中）、  
神戸学院大学（鴻上）、神戸市外国語大学（浅井）、神戸松蔭女子学院大学（奥原）、神戸親和大学（宮内）、  
神戸常盤大学・神戸常盤大学短期大学部（木村）、兵庫県立大学（片山）、流通科学大学（屋久）  
※ ◎は委員長校、○は副委員長校 ※ 敬称略

欠席校：関西国際大学、神戸海星女子学院大学、園田学園女子大学・園田学園女子大学短期大学部、  
姫路獨協大学、兵庫大学・兵庫大学短期大学部

事務局：関西学院大学（永野）

大学コンソーシアムひょうご神戸（鈴木、佐藤、足立）

## I. 報告事項

1. 2023年度キャリア委員会委員校について (資料1)
2. 事業委員会運営に関する申し合わせについて (資料2)

## II. 協議事項

1. 2023年度キャリア委員会事業計画（案）について (資料3)
  - ① 大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進プロジェクト
  - ② 県内企業・団体等の魅力を情報発信
  - ③ 留学生向け就職支援・キャリア教育プログラム
  - ④ 外国人留学生採用ワンストップ支援事業

## III. 懇談事項

「地元で働こう！兵庫県内企業情報サイト」掲載情報の追加と充実について

## IV. 連絡・調整事項

2023年度のキャリア委員会開催予定と主な議題について

- 第2回委員会 10月：2023年度プラットフォーム型申請に向けた実績と自己評価（案）について  
第3回委員会 12月：2023年度事業自己評価（案）について  
第4回委員会 2月：2024年度事業計画・予算（案）  
第5回委員会 3月：2023年度事業報告・決算（案）

## V. 情報交換

### <資料一覧>

- （資料1）2023年度 キャリア委員会名簿  
（資料2）事業委員会運営に関する申し合わせについて  
（資料3）2023年度 キャリア委員会 事業計画（案）  
（参考資料1）2023年度 キャリア委員会 事業予算（承認済）  
（参考資料2）中長期計画Ⅱ期  
（懇談事項参考資料）「地元で働こう！兵庫県内企業情報サイト」掲載企業一覧

## I. 報告事項

### 1. 2023 年度キャリア委員会委員校について

事務局より資料1に基づいて、2023 年度キャリア委員会委員一覧の紹介があり、各委員校より各校におけるキャリア支援の現状と問題意識について情報共有がなされた。

### 2. 事業委員会運営に関する申し合わせについて

事務局より資料2に基づいて、今年度事業委員会運営で適用される申し合わせについての説明があり、旧申し合わせからの変更点について共有がなされた。

## II. 協議事項

### 1. 2023 年度キャリア委員会事業計画（案）について

事務局より資料3に基づいて、2023 年度キャリア委員会事業計画案についての詳細、達成目標及び活動指標についての説明があり、全ての事業計画案が原案通り承認された。

<質疑等>

大学 2 校より、ひょうご留学生インターンシップについて、今年は「エントリーシートの添削」「大学での締切」がどうなるのかについて質問があった。

⇒事務局の回答：従来は大学ごとに応募締切日を設け、エントリーシートの添削・学校推薦をしていただくというプロセスを取っていたが、今年は自由応募、5 月 25 日締切とする。エントリーは、留学生が大学コンソのホームページから直接入力する方式。エントリーシートの内容は企業とも共有するため、事務局より内容充実を呼びかけたいと思っているが、各大学のキャリアセンターの皆さまから是非ご指導をお願いしたい。申し込み学生の情報については、従来通り各大学に共有させていただく。

## III. 懇談事項

1. 事務局より、「課題①取組 2」事業で取り組む「県内企業・団体等の魅力を情報発信（「地元で働こう！兵庫県内企業情報サイト）」について、2023 年度の活動指標を従来通り 15 社以上とするのか、掲載情報の充実を図る方向にするのか意見を頂きたい旨の説明があった。松本委員長より今後も意見等があれば大学コンソにお寄せいただきたいとの説明があった。

<主な意見等>

- ・これ以上掲載企業を増やすのではなく、兵庫県内に就職を希望する学生に提供する資料としては、現状の企業数で十分ではないか。本学では兵庫県出身者が多いので、就職ガイダンスの際に、本一覧を PPT で投影して学生に見せるなど一覧を伝えることに注力する方が良いのではないかな。
- ・医療法人や福祉法人に係る学部を有する大学もあることから、掲載する枠を企業に絞らず、優良な医療法人や福祉法人も掲載しても良いのではないかな。
- ・掲載している企業のどこが良いのかアピールポイントを掲載すれば、学生の関心も変わってくるのではないかな。
- ・企業の特徴が見える形にし、学生へのお勧めポイントや視覚的に魅力が伝わる内容を掲載していただきたい。
- ・学生からのアクセスを増やすためには、内容の充実が必要。各企業の動画とのリンクも考えられる。
- ・本一覧の掲載内容をコンソの SNS で定期的に流れるようにしても良いのではないかな。学生にいかにも本情報を届けるかの一手段として SNS の活用が考えられるのではないかな。

⇒今年度の活動指標の扱いについては、松本委員長と相談のうえ各委員にお伝えしたいとの説明があった。

## IV. 連絡・調整事項

### 1. 2023 年度のキャリア委員会開催予定と主な議題について

事務局より 2023 年度のキャリア委員会開催予定と主な議題について案内があった。

以上をもって、第 1 回キャリア委員会の議事は終了した。

## V. 情報交換

議事終了後、参加委員による情報交換会が開催された。松本委員長より①「キャリアのイベント等に学生をどう集客するのか？」②「インターンシップの位置付けが大きく変わる中、その対応をどのようにするのか？」と

いう2つのテーマが示され、各グループで出された意見・情報交換の内容については、後程発表していただきたいとの説明があり、4人ずつ4つのグループに分かれて意見・情報交換を行った。

＜主な意見等＞

- ・【第1グループ】①集客：アナログを侮ってはいけない。封書の宛先の学生名の横に「保護者様」と一行付け加えるだけで、親御さんが開封し学生に伝えて下さる。学生に直接届けるためには、組織化されている体育会等の団体からLINEで送ることで、学生の素通を防げるのではないかと。②インターンシップ：タイプ1でもタイプ2でも早期選考に繋がるので、とにかく数をこなす、或いは国の方針に従ってタイプ3に参加する。単位認定型はコロナを挟んでどんどん減ってきている。タイプ3以上のインターンシップについては、それが成長の機会になったりガクチカに繋がることを学生に伝えることが必要ではないかと。県内企業のインターンシップを各大学が用意することで、コンソの存在価値も上がり、県内企業の就職にも繋がる。
- ・【第2グループ】①集客：ガイダンスを実施するコマや曜日を予め決め、教務に協力してもらい授業と被らないようにする。所属ゼミの教員等に協力してもらい出席を促す。アナウンスはLINEを活用する。②インターンシップ：専門性の高い看護等の学科に所属する学生については、夏季実習があるため冬期の参加を促す。また、できるだけ単位化を図ることで、学生がインターンシップに参加しようというマインドを醸成してはどうか。
- ・【第3グループ】①集客：学生の縦横の繋がりがなくなりイベントに参加しなくなったため各大学とも集客に苦戦している。様々な方法を組み合わせて集客を図っているが効果がないのが実情。イベント案内の封書は透明のものを使っている。②インターンシップ：タイプが4つになり各大学も様子眺め。結論的には、インターンシップには行った方がいいよと学生には勧めたい。企業側はどのようなインターンシップでも来たからにはその学生を評価する。採用に繋がる可能性があるので、どのような形も参加を推奨した方がよいのではないかと。
- ・【第4グループ】①集客：保護者とゼミの教員の影響力が大きいので、いかに保証人と教員に協力してもらうか。特に3年生4月中に1度ゼミに赴いてガイダンスを実施させてもらえば効果があるのではないかと。各大学ともあらゆる媒体で告知をしがちであるが、学生にとっては様々な部署からメール等が届くために開封すらしめないことになりがち。第1グループの意見のようにアナログの活用も必要であるのではないかと。

＜松本委員長まとめ＞

- ・集客については、多様なチャンネルを用意すること、しかしながら、デジタルに頼り過ぎずアナログにもしっかり傾注する。ネットワークのハブの部分に情報を入れるとそのグループに届くので、ネットワークのハブの部分をいかに掴むか、ゼミの教員や体育会系のようなハブを探し出すことで、情報が学生に届くことになる。
- ・インターンシップについては、とにかく参加せよということはとても大事であるが、学業に影響すると教員と対立関係になってしまうことになるが、学生自身にそのインターンシップがどれだけ意義があるかをいかに情報発信するかがポイントではないかと。
- ・今後も本日のような知識創造の場となる有意義な意見交換を継続したい。

以上